金属部会長便り（2022 年 6 月号）2022 年 6 月 1 日発行（第 11 号）　田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1　直近の活動

5月01日金属部会拡大執行部会（執行部＋地方幹事）

5月08日日本熱処理技術協会・金属部会交流会）参加者97名

5月17日　部会長会議

5月22日　新合格者説明会９名参加。金属部会定例部会。参加者65名

5月29日金属部会幹事会。

2　今後の活動予定（直近１ヶ月分）

6 月 04 日（日）関西地区＆金属部会交流会（計画中。大阪）

6 月 12 日（日）金属部会ＣＰＤ技術セミナー２（金属新技術）

6 月 19 日（日）金属部会「脱炭素社会」勉強会キックオフ

6 月 26 日（日）金属部会定例部会（６月）。ブレークアウトルームで討論を行います。

3　最近の部会の動き

◆交流会や新合格者への説明会など、今月もいくつも行事があった。参加されている方たちは金属部会の行事だけではないはずで、そういう中大勢参加いただいていることには感謝しかない。◆ＣＰＤ登録キャンペーンでは 100 人を目標に掲げた。コーチングの「目的と目標は違う。目標は数値と期限を具体的に設定すること」というルールに則って行ったが、半数近く達成できた。何もやらないよりははるかに高い登録申請数になった。もちろん 2021 年度の文科省登録申請は始まったばかりだ。◆我々は、攻めは結構なモチベーションで行えるが、守りのような（出張申請、確定申告のような面倒なこと）は、技術の進歩や自分の仕事を妨げる時間のような意識がどこかあり、テンションは下がるのが常だ。ましてや手間のかかることや新たな操作などは後回しにしたいし、これまでやらなくても済んだ作業を今更、この年になってやるんかいという気分になってしまう。でも、やってみれば簡単でやり終えた時のスッキリ感は半端でない。◆技術士会会長が言っている「部会と地方連携」もしかり。このテーマにもしっかり取り組みたい。

4　和鐵管見（その９）

◆日本熱処理技術協会との交流会には大勢の会員が集まっていただき、組織を超えた交流への関心のたかさを感じた。先方の説明ではＳＤＧｓが全面にでていて、新鮮な驚きだ。世の中のプレゼンでは、「この技術は 8 番と 17 番を意識しています」など触れるのが当たり前だが、我々の講演ではまず聞いたことがない。世の中の流行には惑わされないぞ、というわけではないのだろうが、流れを意識するのも必要だと感じた次第だ◆定例部会のブレークアウトルームで議論した脱炭素社会も同じだ。和鐵など温暖化議論の「石油だめだ石炭だめだ」と心配性のヒトが叱り飛ばすシーンばかり浮かんでしまって、最初は「これって本当に必要なの？ひとりができることってあまりないよね」というネガティブな気分になりそうだ。「そんなにいうなら石炭なしで金属作ってみせてよ」と開き直りそうな感じだ。しかし、アンケートで回答いただいているコメントを読んでいるうちに、「これはやはり真剣に取り組むテーマかもしれない」という覚悟が浮かび上がってきた。個人のできることは小さくても皆が真剣に取り組むテーマであるのはＳＤＧｓと同様だ。１２月までどのような心境の変化が生まれるのか、今から楽しみだ。◆世の中が変わるのは一気だ。でもその変化は毎日の生活では中々意識できないのも事実だ。あれ程反対していた講演のウェブ配信もコロナでいつの間にか当たり前になった。以前の発言などなかったような顔をして ZOOM や Teams を使っている。大切なのは、事態を予測していたのかどうかはわからないが、こういう技術を準備していた技術者やそれを支える人たちがいたことで、コロナ下の分断の危機を乗り越えられたということ。我々技術者は、来るべき変化に備えて、準備を整えるのが仕事なんだと感じる今日このごろだ。

金属部会長便り（2022 年 7 月号）2022 年 7 月 4 日発行（第 12 号）　田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1　直近の活動

6 月 04 日（日）関西地区＆金属部会交流会（大阪）14 名参加

6 月 12 日（日）金属部会ＣＰＤ技術セミナー２（金属新技術）参加者 67 名

6 月 19 日（日）金属部会「脱炭素社会」勉強会キックオフ参加者 18 名

6 月 26 日（日）金属部会定例部会（６月）47 名

6 月 27 日（日）近畿本部全国大会における打ち合わせ

2　今後の活動予定（直近１ヶ月分）

7 月 03 日（日）三部会合同部会打ち合わせ。金属部会幹事会

7 月 16 日（土）YES-Metals!

7 月 17 日（日）金属部会「脱炭素社会」勉強会第二回目

6 月 26 日（日）金属部会定例部会（7 月）。役員会

3　和鐵管見 10

◆最近では、我々も真面目に脱炭素社会を考えようということで、金属部会内で脱炭素社会勉強会を立ち上げたところ、２０人以上の同志があつまった。これが結構すごい。お互い教え合うのは当然だが、毎月百数十枚の課題資料をみんなで読み解くゼミ形式にしている。これが面白い。技術士会、特に金属部会の特徴かもしれないが「同じ技術士だよね」精神で、元なんとかさんも現役も、技術士１年生も皆が同じ土俵で議論する。議論はまとまらず発散、分裂しかけるが、こういう混沌の世界が脱炭素社会を考えるヒントになると考えている。◆金属部会には正会員だけで４００名以上の金属技術士が在籍し、水素とかメタレードとか再生可能エネルギー、蓄電池なんかを仕事でやっているヒトも数多くいる。脱炭素って金属とむちゃくちゃ相性がよいし、毎月のＣＰＤ講演でいろんな話が聞ける。でもまあ、講演会の話は誰かが既に手掛けているわけで、勉強会をしなくても勝手に進んでいる。勉強会では、技術士はその向こうをいこうぜと提案している。◆例えば、鉄板と自動車の組み合わせ。私も鉄屋をやっていたので、ハイテンとか電磁鋼板とかメッキとかは思いつくし解説もできる。でも、こんなの誰もがわかっていること。◆ちょっと考えてみてほしい。これに水を組み合わせたらどうなる。水と鉄板と自動車。例えば、セルフクリーニングボディ。水で発電する鋼板の自動車。水に浮く、水に潜る自動車。こうなると水に浮く鋼板が必要だ。スポンジ鉄とかハニカム構造とか思い浮かべれば理解可能だ。ロケットだって飛行機だって軽い素材を使っている。水に浮くのも夢物語ではないだろう。ボディの発電にしても、もうちょっとするとでてくる。ペロブスカイト太陽電池ってどこにでも貼り付けられたり印刷できたりする太陽光発電の電池。これで電気分解すれば水素がなんぼでも手に入る。だいたい車なんて走っているより駐車している時間の方が遥かに長い。ボディも新品のときから、ずっと太陽光で劣化し続けている。これを使わない手はない。止まっているうちに燃料くらいしっかり稼げというわけだ。◆技術って面白い。ていうか技術者って面白くて、こんなんでけんやろと言われたらやりたくなる。もう１０年もせんうちにそんな車が走っていてもおかしくない。まあ、こんなけったいな発想をやめんかったらのはなしだが。

【危機に際して、技術者は】

最近、世界の歴史に凝っていて、わかってきたことは、人間って追い詰められるととんでもないものを発明してその危機を乗り越えてきたということ。１万年前のヤンガードリアス氷河期には定住と農業、中世氷河期には石炭と蒸気の産業革命で乗り切った。◆炭素が増えると困ったことになる。だから炭素の使用量を減らす。まあ、これも１つの選択肢だ。でも、石油使うなとか石炭使うなの大合唱は、今の

技術しか見てない。技術者って信用されていないのかなあと思ってしまう。経験も方策も思いつかないひとが、議論をリードしているような気がする。「いいことおしえたる。交通事故を減らすには、車の台数を減らし、車を乗らないようにすればいいんや」と言われているような気分だ。◆太陽光発電なんて、十数年前から比べれば初期投資が十分の１くらいに下がった。これはだれのおかげか。いろんな人の努力もあるが、技術者が頑張った結果じゃないのかなあ◆二酸化炭素が増えると問題やったら、問題ないようにしよう、技術屋だったらこう考える。ここに、脱炭素社会というテーマに、技術者がフラストレーションを募らせる理由があるような気がする。

【身近な脱炭素】

ここでちょっと聞きたいんですが「あなたの脱炭素はなんですか？」こんなことを聞くと誰もが鳩が豆鉄砲を食らったような（こういう光景は残念ながら人生で見たことがないが）顔をする。「世界を論じているのに小さな話をすな！」◆僕が言っているのは我が家の脱炭素。電気代、ガス代、水や下水道、ガソリンや灯油、廃棄物などの総量を３年で２０分の１にしたいということ。こう考えると結構きつい。でも、言っていることはこういうレベルの話じゃないかな。◆我が家の電気代はざっと一ヶ月で４０００円。太陽光発電載せて、電気自動車で月千キロ走ってこの値段。今でも多分最低基本料金近くで生活している。これを総量２０分の１にする。とするとガスと水と廃棄物に手をつけざるを得ない。もちろんガソリンも灯油も使っていないので。てなことを考えるとき、ゴミの重さを数十分の１にするにはどうすればいいのかということになってくる。◆まずは敵を知ること。一ヶ月ででるゴミの量はどれほどか。旅行スーツケース用の秤量スケールで、全ごみ袋を計量して記録している。アマゾンから届くダンボールも例外でない。「これを５０分の１にするのか」絶望的な状況が判明しつつある、てな感じで、身近なところから脱炭素を考えてみませんか。誰もがこんなアホな発想はしない。思いついても沽券に関わるので言わない。でも、脱炭素の覚悟というものはこういうアホなことを真面目に考えることでできてくるのではなかろうか。ここで一旦論をとめる。（ここでいうアホは関西弁で、カチンと来る人や関東のひとはアホをバカと読み替えてください）

金属部会長便り（2022 年８月号）2022 年 8 月 1 日発行（第 13 号） 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1　直近の活動

7 月 03 日（日）三部会合同部会打ち合わせ。金属部会幹事会

7 月 16 日（土）YES-Metals!

7 月 17 日（日）金属部会「脱炭素社会」勉強会第二回目 24 名参加。「温暖化のファクト」「電力備蓄」「水素製鉄」の３講演と「クリーンエネルギー戦略中間報告」の読み合わせ。

7 月 24 日（日）金属部会定例部会（7 月）50 名参加。役員会（７月）37 名中 32 名の参加者・委任。

7 月 25 日（月）三部会合同部会打ち合わせ。全国大会連動行事で 10 月 30 日に三部会合同部会を奈良で開催。基調講演は近畿本部が主催のためリアルのみ、専門会議では３部会から講師をだし、ZOOM 中継も併用とする。「まほろば」「イノベーション」「色材」がテーマ。金属部会からは「古墳時代の黒漆甲冑の防食性」繊維は十二単（奈良時代？）化学は染料。面白そうでしょう。リアル、ZOOM とも参加費無料。

7 月 31 日（日）８月金属部会幹事会。今回からポータルサイトを用いた出欠や情報展開開始。

2　今後の活動予定（直近１ヶ月分）

8 月 14 日（日）金属部会ＣＰＤ技術セミナー３「独立・開業」

講演終了後、ZOOM ブレークアウトルームを使った講師を囲む会を開催します。

8 月 18 日（木）部会長会議

8 月 20 日（土）YES-Metals!

8 月 21 日（日）金属部会「脱炭素社会」勉強会第３回目。水素戦略、メタレード、CCUS などの情報提供見学参加申込み大歓迎です。このポータルサイトからご連絡ください。先月も見学者が６名いましたよ

8 月 28 日（日）ＣＰＤ登録講習会、金属部会定例部会（8 月）

8 月 28 日 1000-のＣＰＤ登録講習会はここから申し込めます（無料です）。

3　和鐵管見 11　**地球温暖化と脱炭素社会（徒然なるままの戯れ文）**

▶地球が暑くなっているらしい。データではそうでないという人もいるようだ。熱心に温暖化が進んでいるので大変だという人もいる。どうやらヨーロッパの人や環境に興味があるヒトが熱心なようだ。でも我々日本人にはピンとこない人も多いのではないだろうか。だって、日本人は生まれてこの方、ずっと温暖化と氷河期を経験している。半年前は氷河期、氷が張ってどこもかしこも凍りついていた。現在は温暖化が進み、酷暑の日々を過ごしている。これからは豪雨と猛烈な風の季節がやってくる。▶西洋の温暖化に熱心な人は、1年間日本で暮らしてみればどうだろうか。それみたことか、この地獄のような暑さがやってくるんだぞと言うかもしれない。でも、そんな地獄に住んでいる我々は文句も言わず、マスクをして日々暮らしている。だって、暑くなればクーラーをつければいいじゃん・・・。▶ここではたと記憶が蘇ってきた。そういえばヨーロッパの家庭や安物のホテルにはクーラーがない。だってあんまり暑くないんだから。でも2018年8月のパリは暑かった。14区の安ホテルの屋根裏部屋の一室で小さな扇風機だけで寝苦しい夜をいく日も過ごした。フランスも、ドイツもスエーデンもクーラーがない。だから暑くなったら困ると考えるのではないだろうか。▶これまではクーラーなしでよかった。これが当たり前だった。でも、暑くなったら寝苦しい。これは困ったことだ。地球温暖化は絶対に阻止しなければならない。そういえば気候変動の問題で大声を上げる人たちはクーラーのない国に住んでいるのかもしれない。日本など温暖化と氷河期を行き来している人間や、元々暑いところに住んでいる人は温暖化が怖いとは思わない。暑けりゃクーラーを買えよ。こう言ったら不真面目すぎると猛烈なバッシングを受けるかもしれない。▶ここで言いたいのは、温暖化が科学的に正しいのか間違っているのかということではない。暑くなるとはどういうことかはすでに人類は、というより日本人は経験済みだとい

うことだ。もちろんマレーシアで生活した時もインドで生活した時ももっと暑かった。クアラルンプールでは安いコンドミニアムに泊まったのだが、4部屋の中で二部屋だけクーラーが部屋に備わっていた。和鐵は快適に過ごせたが、数百円安い部屋に泊まっていた韓国と西洋の人は、夜になるとベランダに出てフウフウ言っていた。きっと暑さを恨んでいたに違いない。彼らはきっと温暖化反対論者になったことだろう。インドの５０℃近い気温の中で鋳片手入れをしている人を見たとき、見てないところではどこか日影で休んでくださいと思ったものだ。▶ここで言っておきたいのは気候問題と脱炭素社会は別に考えなければならないということ。もちろんきっかけは、識者が指摘するように、勘違いか、シミュレーションへの盲信か、利益誘導か何でも良い。でも、走り始めた脱炭素社会の実現という流れは止まらないという事だ。世界がそういう社会を選択しようとしている時、きっかけの前提に正義や論理を持ち出しても意味がないと思う。▶それが証拠に、再生可能エネルギー社会を表明し、石炭を止める、原子力を止める、これからは風力だ太陽光だ、水素だ、でも天然ガスは綺麗だもんねと言っていたドイツも、都合が悪くなると石炭動かします原発止めるのやめますとあっという間に主張を変えた。背に腹を変えられないためだ。あれだけ周囲に石炭の害悪を主張し日本を名指しで非難していたにも拘らずだ。周囲から見ていても本気かよと思うような支離滅裂なエネルギー政策を主張し、最後はヨーロッパ全体で何とかなるよと開き直るああいう姿勢は、島国で原則自分達で何とかしなくてはならない私たちからすると理解しがたいものがあった。理知的で技術力があり、情熱家でありながら、楽天的で、思い込んだら一途なひとほど危ないものはない。でも、我に返ると冷静な判断をしている。▶同様に優秀だが、真面目で融通が効かない我々はどうすればいいか。恐るることはない。温暖化を経験してパニックになっている人たちが言い出したものだからと言ってその方向性にケチをつけることはない。日本人程、温暖化寒冷化、激甚災害に精通している民族はない。彼らがいう地獄の未来の中で生活しているのが私たちだ。地獄の環境を四季と呼び、付き合い、うまく御し、飼い慣らし、使って、愛でているのが我々だ。そこに石油や石炭による動力を変えようぜという動きが出てきただけだ。▶他国がうまくやっているとか、投資がすごいなど焦ることもない。ゲームのルールが変わっただけ。大体、自動車がガソリンで走っているのも百年前、蒸気機関から電気かガソリンか動力の選択の時、たまたま成功した内燃機関と、蓄電池の技術が開発途上であった電気動力で現実的な選択をした結果だ。ガソリンが最適なんて誰が決めたのか。当時は、あんな引火すれば丸コゲになる動力の上に座りたくないと反対意見も多かったと聞く。でも技術の方向性は一旦選択されると、安全性や効率や社会インフラやらが発達していく。脱石油、脱石炭の動きは、この選択を再びしようとしているだけだ。再生エネルギーや水素が非効率だとか不都合が多いなどの懸念は無意味だ。選択された方向性は不都合や非効率などは簡単に乗り越えていく。ここで立ち止まり思慮深いふりをすることは、ガソリン車が出た時、安全性に問題があるので蒸気機関車がいいという論陣を張っているようなものだ。もしくは自分達や先輩が人生をかけてやってきたことを美化し固執しているだけではなかろうか。▶脱石油社会、上等じゃん。地球に優しい？地球は人に優しさなんか求めない。無慈悲に気候を変動させ、何度も生命絶滅をさせてきたのが地球だ。その気候変動にヒトが手を貸そうが貸そまいが、時が来たら生命絶滅環境を作り出すのが地球環境だ。幸いなことに、現在は寒冷化に向かっているわけでもなければ、火山噴火が止まらないわけでもなければ、隕石が衝突したりこれからするわけでもない。そんなことを心配するのは、空が落ちてくるかもしれないと憂えた杞の国の人と同じで取り越し苦労だ。▶脱炭素社会の方向性はゲームのルールチェンジだ。これが自国に有利なルールだと思った国や集団が後悔するようなゲームの勝ち方を堂々としようではないか。そのためには、必ずこれから言い出しっぺ国で沸き起こる見直論などに惑わされることなく、技術に磨きを掛け、とことん追求する。終末論を振りかざして脅かしたつもりになった人や国にゲ

ームから逃げ出すことはゆるさない。これが彼らが地獄の未来と称している自然環境激変社会に住む我々の答えではなかろうか。脱炭素社会、実現しようぜ。（寝苦しい夜ベッドに寝転び、徒然なるままにiPADminiに打ち込んだ和鐵の勝手な妄想文です。繰り返しますが、部会や勉強会の公式見解ではなく、個人の戯れ文章です）

金属部会長便り（2022 年 9 月号）2022 年 9 月 1 日発行（第 14 号）　田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1　直近の活動

8 月 14 日（日）金属部会ＣＰＤ技術セミナー３「独立・開業」　74 名参加

講演終了後、ZOOM ブレークアウトルームを使った講師を囲む会を開催。なかなか盛り上がった。

8 月 18 日（木）部会長会議・・・部会活動の費用のガイドラインを作るそうだ

8 月 20 日（土）YES-Metals!・・24 名。青銅鋳物と弁護士 4 人衆の講話。法律面から見ると面白い。

8 月 21 日（日）「脱炭素社会」勉強会第３回目 21 名。水素戦略、メタレード、CCUS の情報提供があった

8 月 28 日（日）ＣＰＤ登録講習会 22 人集まった。100 人までの道を一歩一歩踏みしめている感じ。

8 月 28 日（日）金属部会定例部会（8 月）62 名参加。今回はエリンガムダイアグラムという「ザ金属」だったせいか他部会がほとんど参加しない事態。ほとんどが金属の参加者だった。勉強になった。

9 月 1 日（木）資源工学・金属合同部会ワークショップ打ち合わせ

2　今後の活動予定（直近１ヶ月分）

9 月 4 日（日）幹事会。新たな幹事、オブザーバも参加。議題盛りだくさんです。

9 月 11 日（木）資源工学・金属合同部会。岡部先生の講義にいまからワクワクしています。

9 月 17 日（土）YES-Metals!

9 月 18 日（日）金属部会「脱炭素社会」勉強会第 4 回目。セミナで配布する用語集を作りましょう。オブザーバ参加大歓迎。このポータルサイトからご連絡ください。

9 月 25 日（日）金属部会定例部会（9 月）

3　部会四方山

▶部会長会議があった。なんでもCPD登録者平均が在籍人数10％らしいが、金属だけ異常値で20％を超えている。何かやっているのかとの質問。100人キャンペーンの成果が着実に出ている。▶地方連携の方針に対し、地方に出向くにも交通費が掛かる、幹事を集めるにも金がかかるとお話しさせてもらった。部会予算の使い方ガイドラインを作るとの表明あり。▶金属部会のような小規模組織でも、皆さんの協力で活性化でき、それが技術士会全体を動かし始めているような気がする。かつてYES-Metals!がそうであったように、直近のラジオがそうであるように、先頭を走るのはしんどい。でも、しんどいけど走ったところまでが成果になる。部会活動もそうありたいと願っている。▶こういうやり方は、一時期はいいが、根付かないと言われる。まあそうかもしれない。でも誰も根付かそうとして活動をしている訳でもなかろう。やりたい、やらなければ、面白そう、理由は様々であるが、他人の目なんか気にせずできない理由をたくさん教えてくれる人々には笑顔と感謝で応え、現在やれることをやれる限りやる。最適化という謎の仕事をずっとやってきた小生の考え方、習い性は、ベストなんて誰もわからないということだ。そして、日々目一杯やった結果が、誰がなんと言おうが最適なんだとういうこと。

和鐵管見 12　ラジオ番組やら相手におもねる話やら

▶YES-Metals!のメンバーや有志の皆さんで軌道に乗せてくれたラジオ番組でまたもやトークした。頼まれれば断れない性格のためか、なんでもホイホイ引き受けてしまう。▶去年の8月、部会長になったばかりの時に出演した時は、まだ堅かった。台本をあらかじめ作ってのトークだった。ところが1年後の今回は、せっかく作った台本は完全に無視。先方の聞きたい話に身を任せて舌先三寸で受け答えするというへんてこなトークになった。▶先方はこれから技術士になる人に技術士の魅力を伝えるというスタイルで質問するが、聞かれる質問の答え全てが滑りまくりであった。なんでも「昔からカブトムシが好きで技術士に」とか「宇宙戦艦ヤマトの真田さんに憧れて」なんてことを他の出演者は言っているようだが、和鐵にはそんなロマンチックなエピソードは何もない。「大クレームの打ち合わせで公正でまと

4 和鐵管見 13　青い和鐵

▸技術士活動とは、何をする活動なんだろう。これまで、物事をあまり深く考えてこなかった。その時の気分のおもむくまま、やりたいことをやり続けて今日まで来てしまった。技術士活動もそのひとつだ。仕事をしたい、旅行をしたい、本を書きたい、そして技術士活動もしたい。その本能に従って生きてきた。▸いつも時間は目一杯だ。だってやりたいことだらけだから。でも、そのひとつひとつにどんな意味があるのかは、正直言ってよくわからない。8 月に出した新刊書も出版したいから執筆しただけ。誰のためにとか何のためにとかの深い自省などなしにだ。これでは赤ん坊の行動と変わらない。▸正直いって、全然技術に自信がないので、技術について語る。脱炭素のことなんて日頃真面目に考えてもいないので脱炭素の素晴らしさを人に話す。勉強会まで作ってしまった。なんだか自分が嘘つきで、本当は何にもできない怠け者の自分がここにいるのを認めたくない反動かもしれない。▸論理的でない人間が論理を語り、金属に思い入れのない人間が楽しそうに金属を語る。不安全行動ばかりしている人間が安全を語るのも同じかもしれない。▸でも、論理的でないとか金属に思い入れがないとか、不安全行動を意識するとかするのは、根底で実はそれに憧れているからかもしれない。もっとスマートでクレバーな人間であれば、一を聞いて十を知るかもしれない。でもそうでない人間は大勢いる。和鐵もそのひとりだ。論理や金属や不安全行動が気になって仕方がない。でも、いくら気にかけても全然手が届かない。こういう苛立ちというか不安感がいつも付きまとう。▸ではどうするか。論理の講義をし、いくら気にかけても知り尽くせない金属の話を書き、不安全行動を探し出していく。きっとクレバーな人なら気にも留めず一刀両断するようなことに執着してしまう。▸冒頭の問いにもどろう。技術士会活動って何をする活動なんだろ。これにスパッと答える能力は自分にない。仕方ないので、見たこともない「技術士活動」を想像して、追いかける毎日だ。部会活動、セミナ、地方交流会、合同部会に新合格者歓迎、勉強会。和鐵の不安神経症ために振り回されている周囲の幹事や部会に人には気の毒だが、これが技術士を深く考えずに部会長を引き受けてしまった報いなのかもしれない。枠を作って、これが技術士活動だよと誰かが止めてくれるまで和鐵の技術士活動探しの旅は続く。▸今回は、ちょっとブルーな感じで文章を作ってみました。最近なんでもかんでも緑や青がもてはやされているので、ひとり反逆を装い、ブルーって実はこんな感じなんだぞと書いてみました。気分が悪くなった人にはお詫び申し上げます。

もなことを言う人が一人いて、もらった名刺にたまたま技術士と書いてあって知っただけ」「昔から金属が好きだった？そんな気味が悪い小学生はいませんよね。たまたまです」「鉄が好きだって？たまたま鉄を仕事にしただけ」「技術にこだわりがありますか？自分のやってきたことになんのこだわりもない。よくコレコレが私の専門ですという人がいるけどそんなのないです。技術にこだわりがないのがこだわりかなあ」「そうなんですか」「そうです。自分のやっている、やってきた技術に愛着とか思い入れはないのかと言われれば少しはありますが。まあ、製鋼をやっている時も、圧延やお客様の使い方が気になって、この今やっていることがどう役に立つのかに意識がいくんです。意識は製鉄所を飛び出し、お客様、そして、世の中、「鉄」だけではないんだ、いろんな金属があるんだと気づき、その向こうにはものづくりの世界が広がっているんです。それも、現代だけではなく、今の技術がどう成り立っているのか、先人がどのように悩んでそれを作り上げてきたのかということに思いを馳せれば、金属でいながら金属にこだわらないヘンテコな性格ができてしまったのかもしれません」▶ラジオとはこんな与太話でも美しく編集してくれて、一応筋がとおるようにして放送してくれる。自分の話をラジオから聞いて、へえ、僕ってこんなことを言いたかったんだと感心した次第だ。今週末の9月2日は、アシスタントの女性のリクエストにお応えして「刀剣」の話をしたものが流れるが、何を話したのか皆目覚えていない。でも、聞いてみたら、言いたかったことが頭に入ってくるような気がする。それにしても金属と刀剣乱舞や鬼滅とどう言う関係があるかと言われれば、素材くらいしか思い浮かばない。多分、アシスタントの女性は鬼滅大好きと言っていたので、この冬から始まるアニメの「鍛冶屋の里編」を思い浮かべての質問だったような気がする。でも、鞭のようにしなる刀ってできるんですかとか言われても「作れんことはないが」とお茶を濁すしかない。しなるとなると、冷間圧延して繊維状の圧延組織になっているものかなあ、でも温度上げるとしなりはなくなるしなあと話をしながらも、別のことを考えていた。▶サービス精神過剰か相手におもねる性格か、ミュージシャンには音楽の話題をふってしまう。初回の時には、楽譜をみせると「皆さん忘れがちですがこう見えても僕はミュージシャンなんですよね」と愛用のギターで「プレス行進曲」を即興で演奏し和鐵が歌う羽目になった。先週も一年振りにその歌が流された。今回の話題は「シューベルト」だった。彼の作った「鱒」という曲と製鉄所と音大の先生を交えた小話をすると、案の定乗ってくれた。ミュージシャンとのトークは音楽に限る。▶以前いた会社で大学の大先生が顧問になられたことがあった。同窓会を会社で開くと言うことになった時、どのように先生を歓待するかという話になった。和鐵は即座に「学校の先生の歓待方法はひとつだけですよ」と応えた。同窓会当日、テーブルに料理が並んでいる前に大勢の弟子が集まった。そして、先生はその料理を前に1時間15分、金属の変態についての講義をされたのであった。大学の先生の歓待は、皆で講義を聞くことしかないでしょう。久しぶりの講義に先生は本当に気持ちよさそうであった。歓待とはこちらがやるものではなく、相手が好きなことをしてもらうこと、こういう気がしてならない。今回も支離滅裂の脳内コンテンツを書き綴ってしまった。

金属部会長便り（2022 年 10 月号）2022 年 9 月 29 日発行（第 15 号）田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1　直近の活動

9 月 4 日(日)幹事会。新たな幹事、オブザーバも参加。議題盛りだくさんです。

9 月 11 日(木)資源工学・金属合同部会。85 名。岡部先生の講義は素晴らしかった。

9 月 17 日(土)YES-Metals!

9 月 18 日(日)金属部会「脱炭素社会」勉強会第 4 回目。14 名。

9 月 25 日(日)金属部会定例部会(9 月)51 名。久しぶりのブレークアウトルーム。

2　今後の活動予定（直近１ヶ月分）

10 月 1 日(土)中部本部・金属部会交流会

10 月 2 日(日)近畿本部・金属部会交流会

10 月 9 日(日)幹事会

10 月 16 日(日)「脱炭素社会」勉強会第 5 回目

10 月 23 日(日)金属部会定例部会 CPD 講演者説明会

10 月 28 日(金)近畿機械システム部会

10 月 29 日(土)日本技術会全国大会

10 月 39 日(日)近畿支部・三部会合同部会

3　部会四方山

最近の部会参加者は 50 から 90 名の参加者になっている。最近流行りのデータサイエンティストっぽく、グラフで解析してみた。折れ線グラフでは、明らかに夏場の落ち込みが見られる。また、同じ月に行事が二つ重なると、最初の行事（合同部会やセミナー）に偏り、月末の定例部会は落ち込みが見られる。▸では、どうするか。参加者内訳をみると、セミナーがある月には、他部会の参加者はセミナーに集まり、定例部会にはほとんど他部会が参加しない傾向が見られる。▸月二回ではベース参加者は金属部会の 50 名程度の方が参加し、他部会の人はどちらかひとつに絞って参加しているように見える。▸ヒストグラムをとると、マヤの遺跡か前方後円墳のような形の、のっぺりとした台地を形成している。とてもピラミッドや富士山のような形には見えない。▸みなさんに大事件を報告する。実は、定例部会とセミナーの参加人数の年間累積が、12 月の定例部会で 1000 人を超える。直前のセミナーで大人数がこなければの話だが。合同部会や交流会をふくめると、すでに今月で 1000 人超えており、年間で 1300 程度になる。これ以外の会合に入れると年間 1500 人の参加があったことになる。参加者の人数なんか別に気にしていないよという人もいるかもしれない。でも、あんなすばらしい講演をスルーしてしまうには本当に惜しい。ひとりでも多くの人に聴いてもらいたい。▸金属部会の ZOOM の稼働率が上がるということは、それだけそのプラットフォームに人が集まったことになる。まず初年度は真水で 1000 人超えで、2023 年はその倍増を狙いたい。でも、それには部会員のひとりひとりの参加したいという思いが沸き起こらなければならない。▸なぜ人数にこだわるか。それは、成果として一番見えやすいからだ。この成果はひとりひとりの有権者、もとい参加者の想いの積み上げだ。自分もその数字を押し上げているひとりだと、みなさんに実感してもらえるような企画を今後もしていきたい。▸まてよ、なんでこんな文章を打っているんだ？そうか、さっき本部からアンケートが来て、「オンラインの会合で苦労している点を教えろ、以下から選べ」という項目があった。和鐵は全部にレ点を入れた。そしてコメントに「苦労ではなく、手順として全て必要。苦労と感じるのは時代錯誤。感覚ずれてませんか？」（最後の 1 文は書いていないが）こんな文章を返した。このコロナ時代、オンライン会議が当たり前の時代に、オンライン会議を、「苦労」と捉えるアナログ感には違和感を覚えたからだ。という感じで今月はここまでで文を終わります。

金属部会長便り(2022年11月号)2022 年 11 月 2 日発行(第16号)田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1 直近の活動

10 月1日(土)中部本部・金属部会交流会　21名の参加者
10月 2日(日)近畿本部・金属部会交流会　15名の参加者
10月 9日(日)幹事会
10月16日(日)「脱炭素社会」勉強会第5回目　24名の参加者
10月23日(日)金属部会定例部会CPD講演者説明会　12名の参加者
10月28日(金)近畿機械システム部会　大盛況。機械部会長に挨拶
10月29日(土)日本技術会全国大会　大盛況。本大会600名超え。懇親会280名。
10月39日(日)近畿支部・三部会合同部会　午前中12名の金属部会交流会。午後50名の交流会。
10月は地域交流・他部会交流（化学・繊維・原子力）・全国大会の月であった。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

11月 6日(日)幹事会
11月20日(日)「脱炭素社会」勉強会第6回目
11月27日(日)定例部会技術講演会

3 部会四方山

▶言葉は、人を動かしもし、また傷つけたりする。幹事会で和鐵が書いた「地方巡業」という言葉は、思わぬところで人を傷つけてしまった。以前いた会社で当たり前のように使っていたので、何気なく書いてしまったが、本当に言葉は難しい。言葉を生業にしていてもまだまだ失敗が多い。▶以前の本で、周期表の説明に、縦列の「＊＊族」をある部族の集会に見立てて文章を書いたら、えらい剣幕で編集者から怒られた。「こんな差別用語を使うなんてあり得ない」「じゃあ、どう書けばいいんでしょうか」「先住民族の皆さんのあつまり、です」「・・・文章、替えます」▶言葉はともかく、10月30日午前中の金属部会の集会で発言した内容はこうだ。「地方交流といっても、まだ中部と近畿しか訪問できていない。北陸も、昨日の懇親会の席上で隣が北陸支部の役員の人だったこともあり、ぜひ来てくれと言われた。九州にもいきたい。中国も広島には人数が固まっている。昨日の懇親会の右隣は東北本部、その向こうは北海道本部のひとだった。東北や北海道にも金属部会のメンバがいる。お会いしたい。▶また、各地に名誉会員の先生が全部で14人もいる。先達の皆さんのお話も聞きたい。さらに、部会には修習技術士が54名もいる。この人たちが1日も早く仲間になっていただくお手伝いをしたい。やりたいことだらけだ。▶もちろんこんなにたくさんしゃべれなかったので、半分くらいは、心のなかでつぶやいたのだが、心底そう思っている。金属部会は、まだまだ活発に活動できる。そういう活動が部会員の皆さんのお役にたてると信じている。年に一度の大会にでると心も体もハイになる。

4 和鐵管見 14

▶10月の様々な交流会は、改めて技術士・技術士会のあり方を考える良い機会になった。また、この数年間のコロナによる鬱々とした蟄居の日々が終わる実感を味わった月でもあった。▶コロ

ナ禍がもたらした負の影響は枚挙にいとまない。逆にオンライン会議やオンライン部会・セミナなど、これまで考えられても実行できなかった形態のミーティングが一気に定着するなど、将来につながる新たな手段が確立した期間でもあった。▶隔離の日々を過ごし、オンラインの利便性に慣れると、わざわざリアルで人と会う必要性を感じなくなる人もでてきているのではないだろうか。「わざわざ交通費を払って、コロナに罹りに行くこともないし」「外にでるのは服装も整えなければならないし、限られた時間のために1日『無駄』にすることもないし」「基礎疾患がある私は、万一のことを考えると外には行きません」▶オンラインでの会話とリアルの会話に違いは、想像以上に大きい。リアルに出会って会話するということがダサくて、古い行動であり、オンライン越しであれば清潔・・・・▶これらの感情、考え方は、技術者倫理のモラルの項目の第二項『自己欺瞞』に相当するものかもしれない。ある行動を行わない場合、その行動を行わない理由を次々と作り出す状態をいう。▶これは部会の皆さんに向かっていっているのではなく、自分への自戒を込めて書いている。2020年、2021年、2022年の6月まで、和鐵は自宅警備員に徹していた。テレワークとオンラインの技術士会行事とだけでも、PCに向かっていれば時間のかなりの部分を消費できた。そして自分に「仕事をしているんだ。技術士会に、部会に貢献しているんだ」という言い聞かせていた。「コロナだもんな」むしろリアルに動き回る人を見て、「なんて危ない橋を渡っているんだ」と考えたものだ。▶考えが変わってきたのは、6月。大阪でのリアルのセミナ講師をするために久々の遠出をし、それを機会に近畿本部所属の金属部会の皆さんとリアル交流をした。知り合いが教授をしている大阪の大学の研究室にでかけた。編集者と喫茶店で打ち合わせを重ねた。こういうことをしているうちに、数年間の外出ブランクが一気に埋まり始めた。▶間違いなく、私たちは生身の人との交流を欲している。もちろんオンラインも交流の一手段であり、距離や時間の制約を解消する手段ではある。会合にこれまで知り合うこともなかったような人が参加してくれているのは本当にありがたいことだ。これはオンラインでの会合のおかげだ。▶正直、今回の全国大会で近畿本部がリアル会合にこだわることに、最初は違和感があった。ZOOM配信をしない会合をするという方針にも心中はいささか穏やかではなかった。しかし、昨日、考古学研究所の研究員の1時間半の講演を目の前で拝聴し、3人のパネラーが一人20分のプレゼンをものすごい勢いで行うのを横で見ていると、そして会場で丁々発止のやりとりをしているのを目の当たりにすると、その場所に集うことの大切さを改めて認識した次第である。▶金属部会の定例部会は7月以降、ZOOMと機械振興会館の会場で会合を行っている。部会員は、遠方や体調などに応じてZOOMで参加でき、気が向いたら会場に集う。こういう体制でリアルでお会いできる方々をお待ちしている。古いかもしれないが、会って話すことの重要性が身に染みている今日この頃だ。

金属部会長便り(2022年12月号)2022 年 12 月 2 日発行(第17号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1 直近の活動

11月 6日(日)幹事会 全国大会の後で静かな打ち合わせ

11月20日(日)「脱炭素社会」勉強会第6回目　セミナ公演の討議

11月27日(日)定例部会技術講演会 少人数ながらまとまった会合になった。今回から、司会を持ち回りにした。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

12月 4日(日)幹事会

12月11日(日)金属部会CPD技術セミナ4「脱炭素社会」申し込みがZOOM上限の100人を超えそう。

11月27日(日)定例部会技術講演会、役員会。

3 部会四方山

▶2022年の定例部会＋セミナ参加者は、12月で1000人を超える。10月の全国大会でオンラインがなく、参加者もわからないためゼロカウントしてでの数字である。来年は全国大会の月もオンラインの定例会をやればもう少し、早めに1000人超えが達成できそうだ。▶合同部会や脱炭素社会、地方交流会も入れるとギリギリ1500人に滑り込む。そうそう、1000人達成は、12月の定例部会の参加者からなので、吉武記念講演会で「豪華記念品」を渡したつもり、受け取ったつもりで達成の喜びスピーチをお願いすることにする。▶最近、技術士会のシステムで立て続けにトラブルを経験した。一つは、12月の定例会が2つ掲載されてしまったことと、吉武記念公演会の申し込みボタンがなかったことである。どちらシステムバグだったようだが、２度あることは３度ある（この表現は正しく、2度目がなければ絶対に３度目はない。1度目の次に3度目が来たらおかしいよね。これこそバグだ）

4 和鐵管見 15

▶どうやら日本は上り調子のようだ。ドーハの2度の目の奇跡も去ることながら、円高も収まりつつあり、海外の政権がガヤガヤしているが、日本は相変わらず、どうでもような井戸端会議的質問で時間を費やしている。平和の証かもしれない。▶今年の6月から脱炭素社会の勉強会を始めたが、案外、参加者の皆さんのノリがよく、驚くほどの知見が共有化できた。少なくとも、勉強会の前後では明らかに意識が異なってきた。勉強会の前は、脱炭素に関しては、被害者意識と不満意識が和鐵の中にあった。それが知ることにより落ち着いて事実で議論できるようになったような気がする。▶知り方にも色々ある。最近ではスマホで「脱炭素」と入れれば、似た記事がわんさかアクセスできる。そこに書かれていることはほぼ同じ。だってソースは同じで孫引きしているものが多いんだもの。でも、これが勉強会で会話しながらの説明なら印象が異なる。ましてや分担してのゼミ形式ではますます親近感が高まる。▶知識を得るには、「読む」「見る」「聞く」「体験する」がある。この中で最強なのは体験するだ。物書きとしてはこんな発言は良くないのだろうが、本を読んだくらいでは、知識は身につかない。会話したり、応用したり、体験して初めて血肉になる。紙や画面に表示されている表示くらいではなかなか身につかない。でも、もっと身につかないのが「眺める」だ。振り返ればyoutubeを眺めて情報を得たつもりになっていることが多い。なんの役にも立たない情報、たまたま表題でポチった、画面に映っていた動画を凝視する行為は、洗脳行為に等しい。これで、知識を得た気になって。「そうか動画を見るだけで1万円が1000万円にできるのか」「腸内バイ菌を培養すれば痩せれるのか」と洗脳されているじぶんが恐ろしい。▶やっぱり、リアルの会話、対話って重要なような気がします。

金属部会長便り(2023年1月号)2023 年 1 月 1 日発行(第18号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1 直近の活動

12月 4日(日)幹事会

12月11日(日)金属部会CPD技術セミナ4「脱炭素社会」108人参加

11月27日(日)定例部会技術講演会50人参加。役員会。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

1月 8日(日)幹事会

1月 9日(月)デジタル技術短期WORKSHOPキックオフ

1月11日(日)技術士会新春記念大会

1月22日(日)吉武記念講演会（第二回目）

3 部会四方山

▶2022年の部会活動の年間参加者は、年末の定例部会で累計1500人を超えました。年初の吉武記念講演会で1500人目の発表を行いたいと思います。エア表彰式、エアお祝いの言葉、エア受賞の言葉をいただければと考えています。▶一言で累計1500人と言ってもピンとこないかもしれません。これは定例部会、セミナ、見学会で1000名強、合同部会、交流会、講習会、勉強会などで500名がその内訳です。毎回、数十人のご参加をいただき、それを地道に回数を重ねた結果です。ひとえに、部会員の皆様、金属部会の行事に参加いただいた技術士会の他部会の皆様のご協力があっての賜物です。実はこれに毎月行っている行事の企画などを議論している幹事会や役員会を入れれば、更に300人以上が上乗せされます。▶技術士は、常にCPDを心がけて技術を、伝達スキルを、知見を磨き続けなければなりません。それには、資格取得の際の努力の二桁、三桁を上回る精進が必要でしょう。自分で常に精進し続ける気力がいつも充実していればいいのですが、それだけに関わっているわけにもいかないのが実態です。それをなんとか部会のメンバの力を結集して、それを分かち合える場を作りたい、その皆様の思いへの共感の結果が累計参加者の数字になったのではと思います。

4 和鐵管見 16

▶一年の経つのは早いものだ。特にコロナが流行り出してからは、海外旅行をするわけでもなく、せいぜい東京、関西方面に出かけるくらいになれば、記憶が更新されることも少なくなった。刺激が少ない毎日は、緊張感がなくなった。と言っても、以前と比べての刺激だが。▶以前、心理学の本で、豪華な監獄の話を読んだことがある。皆さんが、とっても豪華でなんでも手に入り、美味しい食事ができるホテルに泊まっているとする。唯一の制約は、ホテルから一生出られないことだ。こういう状況と、豪華ではないが自由に外に出らる家に住んでいる環境とどちらを選ぶかと言う設問だった。▶答えは自由を選ぶと言うものだった。でもこの設問は時代遅れだ。現代なら、豪華なホテルに閉じ込められていても、メールやZOOMで外部と交流ができる。ツイッターもあり、いいねがたくさん押されれば全然不自由は感じない。躊躇なく都民割で10連泊する方をとる。▶この数年で、活動のあり方が多様化したような気がする。これまで通りの活動もまだある。しかし、部会にしても、学会にしてもオンラインで自宅の席から参加できる利便性を知ってしまった今日では、コロナ前の生活には戻れないような気がする。あの海外に出かけて浮かれていた生活はなんだったんだろうと感じてしまう。▶いま我々はおよそ10年毎に訪れる大きな歴史の転換点に立ち会っている。10年前のあの震災後の失望感の中から立ち上がった

2013年、それからの10年はご存じのとおりだ。何もかも浮かれて過ごしてきた。その前の10年の2003年。20年前か。まだ若かった。仕事漬けで会社に寝泊まりしていた。まだ「24時間働けますか」が残っていた。▶いま東京行きの快速の中で、iPadでこの文章を書いている。記憶を辿っているうちに、いつもそばにいたのは家族と技術士会だったと気づいた。会社の思い出もあるが、やはり筆者の原点は技術士会だった。当時、半年休をとって電車に揺られて東京に通っていた。しょっちゅうではなかったが、部会や講演会に通った。その時知り合った大先輩の姿が、少し年上の先輩の姿が輝いて見えた。▶技術士でなかったらどんな生活を送っていたのだろう。家にこもって幸せな老後を迎えていたのだろうか。2006年から始めた書籍の執筆もなかっただろうし何より様々な人との繋がりもなかっただろう。▶そろそろ東京に着きそうなので回想もここらでやめよう。一つだけ確実なことは、技術士になっていろんな経験を与えてもらった。この恩返しは、この思いを金属部会の皆さんと分かち合うことしかないと信じている。▶新たな年が始まった。今年も皆さんと経験を共有する刺激的な年になるだろう。金属部会の皆様、2023年、新年明けましておめでとうございます。和鐵

金属部会長便り(2023年1月号)2023 年 1月29 日発行(第19号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1 直近の活動

1月 8日(日)幹事会24名参加
1月 9日(月)デジタル技術短期WORKSHOPキックオフ24名参加
1月11日(日)技術士会新春記念大会
1月22日(日)吉武記念講演会（第二回目）114名参加
1月29日(日)デジタル技術短期WORKSHOP（2回目）

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

2月 5日(日)幹事会
2月 12日(日)脱炭素社会勉強会締め会
2月 17日(金曜日)部会長会議
2月 19日(日)【特別企画】技術セミナ5「マテリアルズインフォマティックス」
2月26日(日)金属部会定例部会（2月分）CPDシステム登録オンライン講習会

3 部会四方山

吉武記念講演会は、114名の参加があった。すごい！昨年末のセミナでの108名の記録を、1ヶ月も経たないのに更新してしまった。皆様がお集まりいただき、盛り上げていただける勢いには本当に感謝しかない。幹事、役員を代表してお礼を言いたい。▶金属部会のメンバーは面白い人がたくさんいる。中でも、突飛もないご提案を至極真面目に語っていただける人には、本当にたくさんの刺激をもらえている。「最新金属技術を知りたいんだ」と突然言い出され、その勢いに周囲が引きずられて15分コーナーが定例部会で根付いてしまった。▶「やっぱりデジタル技術だろう」と言い続けられて、「じゃあ、デジタル技術の論文の著者はよろしく！」と逆襲したつもりで、皆で「デジタル技術短期ワークショップ」を始めると、「マテリアルズインフォマティックスを論文の中心に」と御宣託があり、その勢いに引きづられて勉強会を始めてしまった。「よく分からんなあ」の一言で、「じゃあ、わかっている人に教えを乞おう」ということになった。どうせ教えを乞うなら、ということでダメもとで勉強会で使った本の著者のいるM総研に連絡を取ると、二つ返事で著者からオッケーが出た。基本的な話を聞けることになったので、じゃあ次は最新技術だということで探してもらうと、金属部会の人脈の凄さで、東大の先生と産総研の研究者が話をしていただけることになった。タッチに差でNIMSの講演はまたの機会にということになった。ということで、こんなすごいメンツの話を勉強会メンバだけで聞くのは勿体無いということで緊急セミナの開催となった。多分、現在の最高頭脳と最先端技術のお話を金属部会CPD基本料金で聞けるのなんて、そうそうないと思われる。▶それもこれも、デジタル！とかマテリアル！とか大声をあげていただける方がいるおかげだと本当に感謝している。お行儀よくやっていても、大騒ぎしても同じ速さで時間は流れる。ならば、刺激に満ちた時間もいいかと思う。それにしても、M総研の方も、訳のわからんしどろもどろのオファー、しかも技術士会基本講演料金でお願いします、なんて話を真面目に聞いていただいて対応していただけるなんて、キモも座っているし、本当に感謝しかない。皆さん、このセミナは聞き漏らしたら、絶対に一生の損になりますよ。ぜひ参加くださいな。情報技術と金属のコラボって、なんかちょっとハイカラですよね。

4 和鐵管見 17

▶デジタル技術や技術者倫理を考えていると、とんでもない目に会う。

▶吉武記念講演の翌日の夜のこと、和鐵は内房線で帰路についていた。最近は、iPad mini6にキーボードを組み合わせてミニパソコンとして使っている。どこでも、文章が打てる塩梅だ。電車の中でも執筆できるので快適極まりない。ずっと、朝から書いていたヒューマンエラーの項目の続きをminiで打っていた。▶人間がヒューマンエラーを起こすのは、スリップ、ラプス、ミステイクがある。失敗するなんてぼんやりしてるからじゃないかな。▶途中で飽きてきて今度はデジタル技術について打ち始めた。こんな技術に頼るから人間ダメになるのじゃないかな、なんて思いながらも、文章は至って真面目に打っていた。君津までの道中はヒューマンエラーなんて本当にあるのかなという気持ちとデジタル技術なんかに頼らなくても生きていけるぞの気分であった。▶君津駅に着いた。 iPadminiを肩からかけた頭陀袋にほりこんで、足取りも軽く、家路に着いた。駅から2キロくらいの坂道の上に我が家がある。どんどん足が進む。なんだか体が軽い。ひょっとしたら体力がついたのか、君津の重力が小さいのかなんて考えながらどんどん歩く。途中で、あまりの足取りの軽さに、ちょっと違和感を感じた。なんでこんなに足取りが軽いんだ？▶そしてはたと気づいた。東京ではずっと背中で重しになっていたものがない。そうだ、商売道具一式が入ったリュックサック！ない。背中にない。何度も背中に手を回してみても触れられない。▶ヒューマンエラーの原稿に夢中になって、電車を降りる時、リュックを座席の棚に置き忘れたのだった。これってなんだっけ。そうだ、これがヒューマンエラーだ。ほぼ家の前まで歩いて帰っていたが、そのまま君津駅まで小走りで戻った。列車の終着駅なので駅に届いていないか駅員に聞いた。届いていない。何時の電車か車両はどこか、途中で捜索するにはその情報がいるという。でも、キーボードしか見ていなかかったのでそんなの全然覚えていない。これもヒューマンエラー、健忘症かもしれない。▶とりあえず、たった今発車した千葉行きの列車を捜索することになった。その時、天啓が降りてきた。神の声を聞いた。「デウス•エクス•マキーナ（ラテン語です。直訳すると、機械の神）、我を信ぜよ」夢遊病状態で、iPad miniの「探す」のアプリを開く。そうすると、MACBOOK AIRがものすごい勢いで八幡宿を通過し、五井駅に着く場面に遭遇した。それを駅員に見せて捜索を依頼した。MACは直ぐに駅から離れて逃げるので、蘇我駅で捕獲網を張って、駅員に探してもらった。MACが蘇我駅から動かなくなったので、この辺りに留まっていることはわかった。結果、蘇我駅で逃げまわるリュックは捕獲された。これって、ひょっとしたらデジタル技術の恩恵？いわゆるIoTなんだろう。MACは別にWIFIにつながっていないはずなのだが、位置をオンライで特定できた。そういえば、ちょっと前、アップルウォッチを君津市役所前で落として8駅も離れた八幡宿の交番で見つかった時も「探す」の機能でだった。▶デジタル技術なんかに頼るなんて、なんて言いながら結局お世話になっている。今回の教訓、戒めは、電車の中でヒューマンエラーの原稿を書くものではないということ、デジタル技術の悪口を考えたらデジタル技術にお世話になる羽目になることだ。▶結局、蘇我駅までカバンをとりに行き、往復することになった。困ったことは持ち物確認で持ち主を特定するのだ

が、リュックの中に入っている本の題名を言えと言われて、全然思い出せずに冷や汗をかいたこと。結局、またiPad miniに頼り、注文メールを検索して探し出すのに時間がかかってしまった。「逆境を「飛躍」に変えるマーケティング戦略」の題名を紙に書いて駅員に提出した時は疲労困憊で、逆境だらけの一日が終わった。いや、まだこれから蘇我駅から君津に戻らなければならないし、今度は重いリュックを背負って家路につくことになり、逆境はまだまだ続くことになる。ハードな1日は午前0時まで続いた。

金属部会長便り(2023年3月号)2023 年 3月1 日発行(第20号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

第20号

1 直近の活動

2月 5日(日)幹事会20名
2月 12日(日)脱炭素社会勉強会締め会10名
2月 17日(金曜日)部会長会議
2月 19日(日)【特別企画】技術セミナ5「マテリアルズインフォマティックス」76名
2月26日(日)金属部会定例部会（2月分）38名CPDシステム登録オンライン講習会10名

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

3月01日(日)四部会連絡会発足（繊維・化学・資源・金属）
3月05日(日)幹事会
3月12日(日)技術セミナ6「表面技術」
3月19日(日)デジタル技術勉強会座談会
3月26日(日)金属部会定例部会（3月分）CPD講演＋技術者倫理講演、CPDシステム登録オンライン講習会

3 部会四方山

我々の大先輩の渡辺孫也さんが亡くなった。年末での入院の後の闘病生活を送られているところまでは存じ上げていたが、突然の訃報に愕然とした。コロナ前までお元気で、部会でお会いしていた。コロナになっても埼玉県支部の10周年記念式典や記念誌で大活躍されていた。記念式典に出かけてお会いできなかったことが本当に悔やまれる。和鐵の会社の大大大先輩で、当たり前のように見ていた工場や設備の企画から立ち上げまで行われていたことは、偲ぶ会で中山さんが紹介してくれた経歴で知った。薄板鋼板や耐サワーラインパイプなどでもご苦労されたと聞いて、自分と重なる部分も多い。もっと語りたかった。もっと教えを乞いたかった。もっと議論したかった。でも、それも叶わぬ願いとなった。▶金属部会で、弔意をどのように表すか、執行役で議論した。和鐵は、弔電やお花のようなものではなく、偲ぶ会の記録、皆様の寄せ書きを集めてご遺族にお渡ししたいと提案し、皆さんが今回の定例部会で実行していただいた。最近、オンラインで参加いただいている方々や、新たな参加者にとって、何のことかわからないし、仲間内での盛り上がりに見えたかもしれない。しかし、まだリアルで集まれない現状では、金属部会を支えていただいた大先輩を失った悲しみを、関係者で分かち合う策としては、最善ではないにしても、現在とれる最良の行動だったと信じている。▶金属部会に参加いただいている皆様、我々は、技術士としてのCPD活動や情報発信などに部会活動をフル活用するのはいうまでもない。しかし、その部会を構成するのは人であり、その部会を支えるのも人だ。もちろん、今のようなオンラインやハイブリッドの会合もそうだが、それ以前の、少ない関東圏の人たちで、懸命に部会活動を支えてきてくださった先輩方のご努力も忘れてはならない。最近、温故知新と銘打って色々古い話もお聞かせ願っ

ているのも、そのご努力の一旦でも知りたいという思いからである。▶今回も長くなってしまった。このあたりで文を閉じよう。孫さん、ありがとう。ご苦労様。安らかにお眠りください。先輩が愛し、気にかけていただいていた金属部会は、我々後輩が、しっかり受け継いでいきます。和鐵

4 和鐵管見 18

▶新年も改まって、もう3ヶ月目に入る。月日の経つのは早いもので、もう春の兆しがちらほら見えてきた。毎年この時期に憂鬱になる確定申告も済ませると、毎年、ここからさあやるぞという気分になる。▶最近、ホビー雑誌にグラビア記事を書いた。そこに載せたコラムを今回は紹介したいと思う。
【コラム】タンクとの出会い
　マルセイユの丘からの下り坂の角を曲がった時、突然小型のタンクが現れた。それが私とそのタンクとの出会いだった。私が、タンクに見入っていると、後ろから誰かが話しかけてきた。
　振り向くと、まだ10歳ほどの少女だった。フランス人形のように愛らしい少女は、私に一生懸命話しかけてくる。「ボンジュール、ムッシュ。説明をしましょうか？」
少女の後ろには両親がニコニコ笑いながら立っている。地元の人達のようだ。
　「メルシー、マドモアゼル。でも、私はあまりフランス語が得意ではないのです」
タンクを前に、思いがけない異次元の会話が始まる。
「私はジャポンから来ましたエンジニアです」
「私は…」彼女のフランス語の説明では、ジャンヌ·ダルクとかノートルダムとかの単語は聞きとれたが、私の語学力では会話は成り立たない。後ろの両親に、英語で「とっても素敵なお話しありがとうございました。楽しかったです」と言って、その場を立ち去った。
坂道の階段を降りる時振り向くと、3人はまだタンクの前で、私に向かって手を振っていた。
　その時撮影したタンクの写真に銘板が写っていて、帰国後その来歴を知ることができた。
　銘板によるとこのタンクは、第二次世界大戦中、ドイツ軍に占領されていたマルセイユの人々が、１９４４年に激しい都市ゲリラ戦を繰り広げ、マルセイユの丘に建つノートルダム·ド·ラ·ガルド寺院の解放を勝ち取った時、その戦闘の象徴として、フランス人民軍の先頭で激烈な砲撃戦を繰り広げ、最後には私が出会った場所で、敵の焼夷弾の直撃で力尽きた装甲「ジャンヌ·ダルク」形状から判断すると、当時の主力であった中戦車シャーマンM4であろうと思われた。
　小ぶりながら存在感のオーラを発するタンクの写真を見るたび、激烈な戦闘で倒れていった多くの解放軍の人々と、その先頭を駆けるジャンヌ·ダルクの甲冑をまとったあの少女のイメージが、私の脳裏に鮮やかに浮かび上がる。今では、あのタンクの前で現れた少女は、タンク「ジャンヌ·ダルク」の化身で、私に話かけてきたのではないかと密かに考えている。